

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
札幌看護医療専門学校	令和3年3月12日	大堀 克己	〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条6丁目1-5 (電話) 011-801-8343															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人進慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士														
医療	医療専門課程	視能訓練士学科	平成6年文部科学大臣 告示84号	-														
学科の目的	科学的な思考を基に、専門知識や高度な技術を臨床現場で発揮することが出来、かつ、豊かな人間性が備わった視能訓練士を育成する。																	
認定年月日	令和3年3月11日																	
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技												
3	2520時間 (105単位)	960時間 (64単位)	525時間 (18単位)	1035時間 (23単位)	0時間	0時間												
	時間																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
120人	98人	0人	7人	57人	64人													
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価における評価点は、平常の学習状況、出席状況の 要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点 以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断 し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3 位以下を四捨五入する。 【GPAを算出する計算式】 $GPA = \frac{\text{当該授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP}}{\text{合計} \div \text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$														
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏 季:8月7日～8月25日 ■冬 季:12月25日～1月19日 ■学年末:令和5年3月12日～3月30日		卒業・進級 条件	学年単位取得及び卒業の認定は、本校の教育課程に定める 各学年における全ての各学科科目の単位を取得したとき、学 校長が行う。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面について の指導を行っている。また保護者面談も実施している。		課外活動	■課外活動の種類 避難訓練、学園祭、学年交流会(中止)、徽章授与式等 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)														
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 大学病院・総合病院・眼科病院等 ■就職指導内容 3年次4月ガイダンス時に、就職についての相談は担任・副担 任・学科長が随時対応。キャリアセンターの協力のもと、面接 練習、履歴書内容指導、各病院からの募集案内を提示、就職 試験のための必要書類について説明している。 ■卒業生数 : 19 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.73684211 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業生に関する 明治33年1月0日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視能訓練士</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>同行支援従業者</td> <td>③</td> <td>57人</td> <td>57人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	視能訓練士	②	19人	18人	同行支援従業者	③	57人	57人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
視能訓練士	②	19人	18人															
同行支援従業者	③	57人	57人															
中退退学 の現状	■中退退学者 2名 ■中退率 4% 令和3年4月1日時点において、在学者79名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者72名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中退退学の主な理由 進路変更、学業不振 ■中退防止・中退者支援のための取組 サポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学全体で中退退学0%への取り組みを行っている。 成績不振者には、少人数制の補講を実施。																	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 待特性制度、兄弟姉妹・保護者減免制度、単位減免制度、卒業生減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付金利用者: 0名 ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
第三者による 学校評価																		
当該学科の ホームページ URL	https://www.snm.ac.jp/course/orthoptist/																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業生等の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業生等の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、専修生、科目等専修生、研究学生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学者

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように、業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改訂を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本学科では、学んだ基礎科目・眼科専門分野における講義、実習の知識を身に付け、医療人としての基本を学び、患者に対する思いやりの心と態度を習得できることを目標としている。そのために、学生の教育効果が上がり、実践で技術力や医療職としてのマナーが身につくにはどうしたらよいか、教育課程編成委員の方達から、率直なご意見を頂き、学生指導に繋げていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
金井 敬	函館眼科検査会 代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
廣岡 季里子	北海道大学病院 主任視能訓練士	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
下山 記弘	札幌看護医療専門学校 事務局長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	教育課程編成責任者
大西 淑子	札幌看護医療専門学校 視能訓練士学科 学科長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	教育課程編成責任者

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)**

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数:2回 開催時期:8月、2月

(開催日時(実績))

令和3年度 第1回 令和3年8月28日 15:30～17:00新型コロナウイルス感染症のため遠隔会議
令和3年度 第2回 令和4年2月26日 15:30～17:00新型コロナウイルス感染症のため遠隔会議

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

開校1年がたちICT教育の実践の様子と、学校の新たな取り組みをや学生募集状況・就職状況等を踏まえた会議内容となる。ICT教育は昨今のコロナ禍や、気象状況の変化に対応し学生の学びを止めない環境づくりに奏功している。学生募集は学校移転により札幌圏の学生が増え定員の充足につながった。コロナ禍においてICTを用いたりリモートにて実践的な能力を身に付けていく必要があるとのご意見をいただいた。新規導入機械などを活用しより実践力を高めていく。また、オープンキャンパスでは学生プレスを1年生からも募集し高校生とより身近な対応を心掛けていき学校の魅力を伝える必要性を確認した。コロナ禍においての病院実習に関しては、不足時間が生じた際のの学内での学びを充実させるかが問題点として挙がる。また、病院実習指導者には、限られた時間の中で教育効果を高めていただく工夫をお願いしていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で学習した知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践出来るようになるための基礎能力を養うことを目的とし、主に臨地実習をととして企業と連携して学生の教育にあたる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教員・臨地実習指導に携わる看護師等が、各実習において学科が設定した各看護学実習のねらい・目的・目標・評価基準を共有し、それに基づいて学生に対し直接指導にあたることで、学生が実習目標を達成できるように連携して支援を行っている。評価については、各実習病院の指導者と実習指導教員で協議し決定している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
保健・保育・教育・福祉施設等実習Ⅰ	保健・医療・福祉に関わる現場で見学・実習し、医療従事者としての人間性を深める。	旭川医科大学病院、北海道盲導犬協会、ひばりが丘保育園、ひばりが丘明星幼稚園、いちい保育園 等
保健・保育・教育・福祉施設等実習Ⅱ	保健・医療・福祉に関わる現場で見学・実習し、医療従事者としての人間性を深める。	北海道札幌視覚支援学校、札幌市視聴覚障がい情報センター、ひばりが丘明星幼稚園、ひばりが丘保育園、いちい保育園 等
病院臨床実習	既習の講義、実習の基本的知識をもとに、現場での臨床実習にふれ「知識・技術・態度」を習得し、豊かな人間性と社会性を身に付けた視能訓練士を目指す。	旭川医科大学病院、札幌北辰病院、大塚眼科病院、大橋眼科、手稲溪仁会病院 等
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
職能団体が主催する研修に参加し、教員としての指導・学生支援のスキルを向上させる。また、最新の知識・技術を取得するための視能矯正・眼科関連の学会に参加し、研究発表や講演を通して教育力を上げる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等 令和3年11月7日(日) 眼科医療従事者講習会 眼科疾患、眼科検査、斜視弱視の治療等の講習会		
② 指導力の修得・向上のための研修等 令和3年12月23日(木) 令和3年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 令和4年2月 全国視能訓練士学校協会 教員研修 学生指導力習得及び向上を目的とした教員研修会		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等 令和4年10月22日・23日 第62回日本視能矯正学会 眼科検査、斜視弱視の訓練・治療等の学会		
② 指導力の修得・向上のための研修等 令和4年10月 全国視能訓練士学校協会 教員研修 学生指導力習得及び向上を目的とした教員研修会		
(別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

日々の学校運営については学内の学校長、副校長、事務部門長により月2回の定例会議にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については事務局長ならびに学科長で構成される学内組織において教育実践上の問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか ・人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか ・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか ・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教員の専門性を向上させる研修を行っているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図れているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備は出来ているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価は年に1度実施している学校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し学校運営に活かすべく方針を決定している。

業界・地域の新しい動きをリードする産官学協同教育を柱とした教育環境の提供を推し進める。

1. ICTを導入した教育の推進を行い、早期から専門性に触れられる(アーリーエクスポージャー)カリキュラム構成にする。
2. 模擬患者演習、業界との共同研究をカリキュラムに取り入れることにより、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進する。
3. 創造力を育む異分野交流学習の仕組みを創り、実行する初年度とする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院	2021年4月～2023年3月	卒業生代表
安達 恵美	学生の保護者	2021年4月～2023年3月	保護者代表
平舘 晃	北海道札幌東商業高等学校 主幹教諭	2021年4月～2023年3月	高等学校関係者
三上 真広	株式会社札幌副都心開発公社 SC事業部部長	2021年4月～2023年3月	地域関係者
中村 琢哉	医療法人新さっぽろ脳神経外科病院 理事・事務長	2021年4月～2023年3月	医療分野代表
青木 一太	医療法人社団 一心会 理事長	2021年4月～2023年3月	医療分野代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.snm.ac.jp/school/info/>

公表時期: 令和4年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、学校の各行事(入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、卒業式等)にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.snm.ac.jp/school/info/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 視能訓練士学科) 2022年度

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	s	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			国語表現法	文章作成演習を通して、文章作成の基礎知識・技術を学ぶ。	1通	60	2	○			○			○	
○			コンピュータ演習	医療現場で必要とされる、コンピュータの基礎知識を学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			医学英語 I	基本的な日常英会話力を身につける。	1前	30	1	○			○			○	
○			医学英語 II	眼科領域の文献を読解するために、基礎的な英文法を学び、文献講読演習を行う。	2前	30	1	○			○			○	
○			心理学	人間の心の働きや行動の仕組み、法則性を学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
○			保育	保育の意味と、乳幼児の発達を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			人間関係論	人間関係の諸問題を理解し、円滑な人間関係を築く方法を探る。	1通	30	1	○			○			○	
○			人間発達学	人間の発達は生涯発達であることを基本において、その心と体の発達の特徴を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			臨床心理学	患者の心理を理解する前段階として、小児の心理特性や、人間の発達段階を学ぶ。	2通	15	1	○			○			○	
○			精神保健	精神障害を理解するために、心の発達を学ぶ。人格とは何かを知るために、自分の性格を見つける。	2後	15	1	○			○			○	
○			公衆衛生学	健康をめぐる社会医学的な諸問題を理解する。	1前	15	1	○			○			○	
○			社会福祉学概論	社会福祉と社会保障の制度を理解する。	1前	15	1	○			○			○	

○			関係法規	法の基礎知識と保健・医療における法規を理解する。医療従事者としての業務責任について自覚する。	2前	15	1	○			○						○
○			リハビリテーションⅠ	視覚を含む感覚障害を持つ人の生活と、それを支援する方法を理解する。	1後	30	1		○		○						○
○			リハビリテーションⅡ	同行援護の応用を学び、障がい者支援の知識・技術を高める。	2通	30	1		○		○						○
○			医療倫理学	倫理とは何か、医療人として守るべき医の倫理とは何かについて考える。	1前	15	1	○			○						○
○			接遇・マナー教育	社会人として円満な人間関係を築くのに必要なマナーを身につける。	1前	15	1	○			○						○
○			数学・統計学	各種データのまとめ方、読み取り方を学ぶ。	1前	30	2	○			○						○
○			物理学	物理学の法則や原理、特に幾何光学を学ぶ。	1前	15	1	○			○						○
○			生物学	細胞、組織、遺伝、発生を学び、生物を系統的に理解する。	1前	30	2	○			○						○
○			解剖学・生理学	人体の構造と機能を系統的に学ぶ。	1前	30	2	○			○						○
○			解剖学・生理学実習	講義で学んだ人体の構造と機能について実習を行い、より深く理解する。	1通	45	1				○	○					○
○			脳・神経の解剖学	神経系の構造について学ぶ。	1前	15	1	○			○						○
○			免疫学・微生物学	病因となる微生物の特徴と、それに対する生体防御反応の仕組みを学ぶ。	1前	15	1	○			○						○
○			病理学概論	主な疾病の病理学像を学ぶ。	1前	15	1	○			○						○
○			臨床医学Ⅰ	医療従事者として、代表的な疾患の成り立ちを学ぶ。また、眼に何らかの異常を示す全身疾患は多く、そのような疾患の基本的症状について学ぶ。	1後	30	2	○			○						○
○			臨床医学Ⅱ	病院実習に向けての知識・技術を総括し、病院実習に関わる事項を学ぶ。	3前	30	2	○			○						○

○			視機能の検査・診断Ⅲ	視機能検査についての検査・診断法を学ぶ。	3通	30	2	○					○		○	○
○			視機能の検査・診断演習Ⅰ	視機能検査法や、検査データの読み方などを演習を通して学ぶ。	2前	30	1		○						○	○
○			視機能検査学 実習	視機能の検査・診断の講義で学んだことを、実習によって理解を深める。	2通	135	3						○	○		○
○			視能矯正学Ⅰ	斜視の検査・診断・治療について学ぶ。	2前	15	1	○								○
○			視能矯正学Ⅱ	斜視の検査・診断・治療について学ぶ。	2通	15	1	○							○	
○			視能矯正学Ⅲ	視機能に関わる検査、診断、治療について理解する。	3前	30	2	○								○
○			視能矯正学Ⅳ	視機能に関わる検査、診断、治療について理解する。	3通	30	2	○								○
○			視能矯正学Ⅴ	視機能に関わる検査、診断、治療について理解する。	3前	30	2	○								○
○			視能矯正学Ⅵ	視能矯正に関わる検査・診断・治療について理解する。	3通	45	3	○							○	○
○			視能矯正学演習Ⅰ	視機能や視機能障害について演習を行い、理解を深める。	2通	30	1		○						○	
○			視能矯正学演習Ⅱ	視機能や視機能障害について演習を行い、理解を深める。	2通	30	1		○						○	○
○			視能矯正学実習	視機能や視機能障害について臨床で実践できるレベルまで身につける。	2通	45	1						○	○		○
○			ロービジョン総論・各論	視覚障害について知識を高め、ロービジョンケアの重要性を学ぶ。	3通	15	1	○								○
○			総合臨床実習Ⅰ	社会人としてのマナーを身につける。	2通	45	1						○	○		○
○			総合臨床実習Ⅱ	就職試験に対応できる知識・マナー等を学ぶ。	3通	45	1						○	○		○

○		保健・保育・教育・福祉施設等実習 I	保健・医療・福祉に関わる現場で見学・実習し、医療従事者としての人間性を深める。	1通	45	1				○	○	○	○	○	○
○		保健・保育・教育・福祉施設等実習 II	保健・医療・福祉に関わる現場で見学・実習し、医療従事者としての人間性を深める。	2通	45	1				○	○	○	○	○	○
○		病院臨床実習	眼科医療の現場での見学・実習を通して、知識の向上と責任感を養う。	3通	495	11				○		○		○	○
○		基礎視能矯正学	国家試験対策として視機能や眼科学の基礎となる知識を、演習を通して学ぶ。	3後	60	4	○				○		○	○	○
合計				75科目		2520 (105)	単位時間(単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。